



おぢばは、人間本来の よいものを引き出す所

6月大教会教会長会議

立教189年6月22日

大教会長 片山 幹太

本島通信

発行所 〒763-0223
香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321 (代)
本島通信編集室 R260624-0626-12
奈良県天理市指柳町270-1
本島詰所 〒632-0093
電話 0743-63-1571 (呼)
<https://www.honjima.com>
Email: webmaster@honjima.com
大教会 朝夕おつとめ時間
【6月1日～8月31日】
朝づとめ 午前6時00分
夕づとめ 午後7時00分

現在、世界では4年に一度開催されるサッカー・ワールドカップで大変盛り上がりしています。

サッカーは1点取ったらみんなシュートを決めた人のところに集まって讃えたり祝ったりしてますね。ベンチの控え選手も走って集まるのですが、そのときさりげなく水を持って行くシーンを見ることがあります。実際にプレイしている選手たちにも、貴重な水分補給をうながしているのです。そんなさり気ない気遣いや、優しさを見ると、いいチームだなと思ったりします。

このさり気ない気遣いは、夏の学生生徒修養会でもよく見かけることがあります。

ずいぶん昔のことになりますが、私が学修スタッフをしていたときのことです。一人の女子高生が、残ったコロッケを一つにまとめたお皿を両手で持って歩いていました。そし

て白衣を着た食堂係のおじさんのところへ持って行き、たぶん「これどうしたらいいですか？」と尋ねているようでした。するとおじさんは無言で、残飯を入れるポリペールを指差したのです。

するとその女子高生はどうしたのか。その場で立ったままコロッケを手づかみで食べ始めたのです。きつともったいないと思ったのでしょうか。それを見ていたスタッフがみんな彼女のところへ行行って、残りのコロッケを分け合って食べたので、残飯はなくなりました。

教祖は「すたりもの身につくで。いやしいのと違う」と教えられましたが、学修ではそのように判断できるようにお育ていただいているのだと実感しました。そしておぢばは、人間本来のよい部分を引き出しでもらえるところだと思います。

今年も学生生徒修養会高校の部が8月に5日間、開催されます。該当する高校生にぜひ積極的に声をかけていただきたいとお願ひいたします。話は変わりますが、天理高校は進学コースの1類、特別進学コースの2類、天理スポーツ・文化コースの3類がありますが、その3類に信仰

実践コースもできるとのことです。おぢばで一層深い信条教育が行われるということだと思います。

また来年から制服がブレザーに変わるということです。これまで男子は詰襟学生服でしたが、価格高騰により購入するのに大きな負担になっていました。そこで低価格なブレザーに変更するのが理由とのこと。もちろんお下がりを使うことも考慮して、しばらくは新旧の制服を併用していくこと。女子はスカートだけでなく、スラックスも選べることも発表されました。

7月26日は、少年会本島団おつとめ総会を勤めさせていただきます。当日、おつとめを勤めることは大事なことでありますが、もう一つ、その日に向かって子どもたちは稽古を重ね、当日を迎えることがとても尊いことだと思います。どうぞ積極的に励んでいただきたいと思います。最後に宮森与一郎先生のお手直しは、今後も続けていただけることになっております。次回は8月25日午後3時から本島詰所です。こちらも皆さまと共に稽古に励ませていただきます。よろしくお願いいたします。(文責・本島通信編集室)

馬鹿になれ、喧嘩は負けよ そして心が柔軟な賢い人たれ

大教会准役員

むかいじよたかふみ
向所隆文

皆さま、本日はしばしのお時間を頂戴いたしました、私のささやかな道楽のひとつ、「写真」のお話をひとくさり語らせていただきます。

さて、そもそも写真というものの、現代においてこれを見ずに一日を過ごすことができませんか。

朝起きて手にするスマートフォン、新聞、雑誌、テレビ、あるいは街角



の広告看板。どこを見渡しても写真、写真、また写真。まことに、私どもの暮らしの中に、当たり前のように入り込んでおります。

しかも見るだけではございません。皆さまご自身が、日々写真を撮っておられる。家族の笑顔、子どもの成長、美しい風景、あるいは美味しそうな料理。ぱちりと一枚、手軽に撮っては誰かに送る。そのわけは何でしょうか。記録のためもありましょう。しかしそれ以上に、「この瞬間を誰かと分かち合いたい」という、人の本能に根ざした営みではないでしょうか。

思い返してみてくださいませ、子どもの頃の思い出。あれこれ浮かぶ中で、実は写真に残された情景こそが、くつきりと記憶に焼き付いて

いること、多いのではないのでしょうか。人の記憶は頼りない。しかし写真は、時を越えてその瞬間を呼び戻してくれるのでございます。

さて、話はぐつと昔へとさかのぼります。世界で初めて実用的な写真を生み出したのは、フランスのダゲールという人物。時に1839年、日本では天保10年4月。教祖が月日の、やしろとなられてから、わずか半年後のあの頃でございます。つまり天理教の歩みと、写真の歴史は、ほぼ同じ頃に始まったのでございます。

このヨーロッパ生まれの新技术が、はるばる日本の大和のお屋敷に届くまでの道のり、これをひとつ、たどってみたいと存じます。

ダゲールの技術は、フランス政府が買い上げ、広く公開されたことで、瞬く間に世界へ広がりました。翌1840年には、アメリカ・ニューヨークにて、世界初の商業写真館が誕生いたします。

それから13年後の嘉永6年、日本に黒船来航。アメリカのペリー提督が日本に開国を迫り、世の中は上を下への大騒ぎ。翌年には日米和親条約が結ばれ、その折アメリカから徳

川將軍家へ贈られた品々の中になんと、写真機が含まれていたのでございます。嘉永6年、ひながたでは教祖の夫善兵衛様お出直し、中山家の母屋とりこぼち、こかん様の浪速布教が立て合った頃にあたります。

かくして写真機は日本に伝わり、やがて日本人による写真館が、長崎横浜、函館といった開港地に誕生したのが文久元年のこと。その頃、教祖のご家族は貧のどん底を歩まれつつも、ようやく「おたすけ」を求める人が現れ始めました。

さらに時は進み、幕末の肖像写真と言えば、坂本龍馬ではないでしょうか。あの袴にブーツの立ち姿の写真、あれは慶応2年に撮影されたものの。自由闊達な人物像を、見事に一枚に封じ込めております。教祖はこの頃、おつとめを教え始められたのでございます。

明治に入りますと、政府の富国強兵政策のもと、記録写真が盛んに撮られるようになります。北海道の開拓、鉱山の開発、戦争の記録。写真は時代の証人として活躍し、多くの写真家と写真館が生まれました。

そして本教に残る最も古い写真が明治20年陰暦正月27日、つまり教祖



「ひながた紀行—天理教教祖伝細見」
天理教道友社、322ページより

が現身をお隠しになった翌日、お屋敷で撮られた集合写真でございます。この時代の写真は、今のよう気軽なものではございません。湿板写真といまして、ガラス板に薬品を塗り、乾かぬうちに撮影、そして現像まで一気に行うものです。大がかりな装置をお屋敷に運び込み、その場で仮暗室を設けての大仕事。さらに撮影するときは10秒から20秒、じっと動かずにおらねばなりません。そのため当時の写真を撮ってもらう心得書には、「写真に笑を含むはとても出来ぬ事にて動かぬ事を専らに注意し…」とあるほど。

ですから昔は、歯を見せた笑顔の写真がないのはこのためでございます。さて、そんな中、お屋敷で撮られ

た集合写真。そこには59名の姿がございます。よく見ると、実に興味深い。撮影中じっとしていられず顔がぶれてしまった人が3人います。

まず最前列の幼い子ども2人。逸話篇では教祖が、この子ども2人を同時に背負って歩かれたお話が残っています。

そしてもう一人は、赤子に乳を与える母親です。私の想像であります。が、写真を撮ろうとしたとき、赤子が泣いたのでありましょう。そこで乳を与えながら、つい顔が動いてしまった。写真から人々の息づかいが、伝わってきます。

続いて男性は皆、羽織袴に白扇を手にしております。これは喪の礼に用いるもの。教祖が現身を隠された翌日、初代真柱様に礼を尽くす姿がうかがえるのでございます。

ところがただ一人、飯降伊蔵様だけは違うものを持っている。手にしているのは「差し金」です。これ大工道具です。なぜか。「自分は大工である」という誇り、その心の表れではないでしょうか。

人は写真に撮られるとき、無意識に「自分とは何者か」を示すものを持つものです。これを私は「依代」と呼

んでいます。現代でも写真を撮るとき、プロ野球選手はバットを持ち、私たちは飲み会でジョッキを掲げる。皆、同じことでございます。

女性たちの装いにもまた、時代の姿が映ります。着物の前あわせは帯のすぐ上から開いて、半襟を大きく見るスタイルです。寒い冬は半襟をタートルネックのように巻く着付け、これが明治の流行です。写真一枚から、当時の文化が立ち上がってくるのでございます。

さてここで、もう一席。話の舞台を我が本島大教会へと移してみたいと存じます。

本島大教会史料集成部には、先人の足跡を今に伝える古い写真が、数多く大切に保管されております。そのいくつかは「本島ドットコム」にてご覧いただけますが、本日はその中でも、ひととき印象深い一枚について語らせていただきます。

時は明治42年4月。場所は海を越えた朝鮮の京城。異国の地において撮られた、5人の人物の記念写真でございます。おそれながら歴史上の人物ゆえ、敬称略してご紹介いたします。

前列に座すは2人。向かって右に本島支教会長に就任したばかりの片山好造40歳。左に京城宣教所長の犬熊松次郎47歳。そして後列には3人。中央に本部員・松村吉太郎42歳、右に若き本部青年・中山慶太郎24歳、左に犬熊こま46歳。いずれもその時代を担う人々でございます。

この本島に残る最も古い写真が、その後120年経て良きご縁につながるなど、だれも思いつきはしなかったであります。

と申しますのも、中山慶太郎先生のお孫様がよ志系前会長様でありますから、片山好造と中山慶太郎は孫同士が結婚され、さらにその孫、つまり片山好造・中山慶太郎の玄孫香葉子さんが、松村吉太郎の玄孫天晴氏とこの春結婚されたのは、何と不思議なご縁ではないでしょうか。

ところで大教会年譜表をひもとけば、この写真の背後には、大きな時代の動きが見えてまいります。

前年、明治41年。京城布教所が設立されたタイミングに、天理教一派独立が認められ、翌明治42年、天理教独立奉告祭が執り行われます。本島布教所が支教会となり、片山好造が会長に就任します。さらには4月



ゆく装いでございます。そして大熊こまは教服に中啓を手をしている。

この一枚からは、単なる記録を超えた「気迫」が伝わってまいります。新たな土地に道を開こうとする志、未知の地へ向かう覚悟、そして未来への希望。それらが静かに、しかし力強く漂っているのです。

ところがこの明治42年は、門出の年であると同時に、辛い別れの年にもなりました。

大教会年譜表にはこう記されています。「4月28日、片山好造支教会長は、訪韓中の松村吉太郎本部長、中山慶太郎を釜山に出迎え、京城宣教所に案内し、一週間滞在」と。おそらくこの折に、この一枚が撮影されたのでありましょう。

写真の前列の2人の服装は、白い衣冠束帯。当時の正装に身を包み、端然と座しております。いかにも新任教会長としての決意が、姿そのものに表れています。

一方、後列の3人。松村先生はダブルのスーツ、中山先生は三つボタンのシングルスーツ、二人ともウィングカラーシャツ。時代の最先端を

に「大ふし」と申すほかございません。

一見すれば静かな集合写真。しかしその裏には、激しくうねる時代と人の覚悟と祈りが宿っている。だからこそ写真はおもしろい。ただの記録ではない、そこに生きた人々の「心」が写っているのでございます。

さて皆さま、本日は写真の道楽談義に終わらず、修養科のお話もひとつ申し上げたいと思います。

私は一昨年、大教会長様の親心を頂戴いたしました。修養科第1000期に一期講師として勤めさせていただきました。

そこで、天理教教典第十章「陽氣ぐらし」の授業で修養科生の皆さんにお話ししたことを、本日は最後にご紹介したいと思います。

それは「互い扶けあいと一手一つの理」についてです。

教典で学んだ教えを、日常生活の心遣いにどう落とし込んでいくのか、「陽氣ぐらし」に向かって、私たちはどのように歩めばよいのか。理想と現実、その対策について、ご思案いただきながらお聞きいただけたら幸いです。

皆さま、「陽氣ぐらし」とは何でしょう。

陽氣ぐらしとは、私たち自身が「明るく勇んだ心」で日々を過ごすことであり、喜びと楽しみの中に暮らすことでございます。

ここで大切なのは、陽氣ぐらしは、他の人々と共に喜び、共に楽しむところに現れてくるということです。自分一人だけの陽氣ぐらしは存在しないのです。教祖が示してくださった「人をたすけて我が身たすかる」というお姿でございます。

ところが、このお道を信仰し、熱心に御用をする人であっても、夫婦関係や家族関係が上手くいかなかったり、教会や職場、地域でも人間関係に苦勞する。そんなことがございます。

では、人と共に喜び、人と共に楽しむにはどうすればよいのか。それは、お互いが兄弟姉妹であると思心得て、一つの道の理に心を合わせ、互いに立て合い、たすけ合うことでございます。そうした日々の積み重ねの中に、陽氣ぐらしへの道は開けてくるのであります。

ところが、その道を妨げるものがある。それが「勝手」でございます。

勝手とは、親神様の教えに自分を合わせるのではなく、親神様の教えを自分に都合よく利用することです。癖・性の姿でもあります。

勝手は一人ひとりにとっては都合が良いように見えても、皆が勝手を通せば、全体は治まりません。ですから、勝手の人に対しては、ていねいに教え諭して、教祖の教えに沿ってもらえるように働きかけることが、おたすけになります。

けれども、これが一番難しいです。なぜなら、人間というものは、もとも自分勝手だからでございます。自分の見たいように見て、考えたいように考え、やりたいようにやる。それどころか、それが身勝手だということすら、理解できない人がいます。世の中にそのような人が多いし、そこにあるのは心の闇路です。

そのような我が身勝手の人を前にしたとき、どうするか。

私たちはまず、埃を浴びないように、低い心で通ることが大切です。赤峰の初代会長様はこうおっしゃいました。「馬鹿になれ、阿保になれ、喧嘩は負けよ」

勝とうとするから埃を浴びる。低くなれば、争いは小さくなる。それ

でも埃は身に降りかかってきますから、すぐ親神様の教えを箒にして我が心の埃を払うことが大切です。

そして相手を無理に変えようとするのではなく、自分の心の方を変えてみる。自分の立ち位置を変える。相手との距離を変える。そしてバランスを取ることも大切です。

自分が変わると、まれに、相手の心が動くこともあります。が、人によつては、まったく動かない、まったく分からないというモンスターのような人もいます。

その時は、まず自分の心を守ることを第一に考えて下さい。間違つても丸腰で、あなたの心を傷つけようとするモンスターに立ち向かつてはいけません。

人命救助に向かうレスキュー隊は、まず自分の安全を確保いたします。自分が倒れてしまえば、人をたすけることはできないからです。おたすけもまた同じではないでしょうか。

赤峰初代会長様はさらに戒めとして、「切口上、切言葉、捨てぜりふ、泣き言、小言、不平不足、蔭の離間語、うそについしゅう」を慎むよう教えられました。

無愛想な言葉。縁を切る言葉。相

手を傷つける捨てぜりふ。愚痴や不満。陰口や離間語。離間語とは「あの人、あなたのこと嫌いと言っていたわよ」つていうやつです。そして真実のないお世辞。こうした言葉は、自分を使わない。夢の中でも使わない。使ったら口が腐ると思ってください。

一方で、もし自分が、このひどい言葉を受けたときはどうするか。そのときは、次のように考えてみてください。私の前生から持つて来た悪因縁を一つ切ってくれた恩人だと。そして陰でその人を褒めて、感謝してみてください。

それは、相手の悪い言葉を認めることではありません。その出来事を通して自分の心を磨かせていただくのでございます。

私は以前「たんのう」とは、成つて来る姿の全肯定だと言いました。「たんのう」することによって、親神様からご覧になったあなたの価値が高まります。

おたすけの上に自分の心を柔軟に変えられる人。変わることを恐れない人。その変化すら面白がれる人。私はそのような人を「賢い人」だと思います。傍から見れば世の中、賢い人が振り回されているように見える

かもしれません。しかし、賢い人がようぼくとなつて、教祖の道具衆として働かせていただく。心を柔軟に使わせて頂く。その姿を、親神様・教祖はきつとお喜びくださるのでございます。

陽気ぐらしへ向かつて、大きな歩みはできないかもしれない。けれども小さくても確かな一歩を踏み出す。それが今を生きる私たちの現実ではないかなと思います。

そして、その歩みの中にこそ、「互い扶けあいと一手一つの理」があるのではないのでしょうか。いかがでしょうか。

修養科は、人を育てる大切な場でございます。どうか身近な方々に積極的に修養科志願をお勧めください。そして教養掛についても、大教会みんなで心を合わせ、丹精のたすきが欠けることなく次へ次へと受け継がれていくよう、それぞれ力を尽くさせていただこうではありませんか。これぞ人を育て、信仰を育て、末代へ道を伝える尊い務めであると思います。

ご清聴ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

六月月次祭 祭典役割

立教百八十九年六月二十二日

献饌長 大西知
伝 供 向所隆文・永島宗行・原口実・奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・雲庵春彦・茶屋原良昭・横山正次・高島栄造・窪田卓夫・岩橋秀一・白垣初生・香川勝巳・村田輝夫・橋口徹・大西剛・大矢万三・古井信・上山片山昇太(順不同)

康雄・川村吉夫・溝口晋太郎・江草克二・牧野近弘・長濱充憲・倉嶋孝明
雅楽奉仕者 文岡育則・池田恒治・片山秀明・上山薫・伊東賢太郎 鎌田康典・白垣俊生・片山昇太(順不同)

祭主 指方	大教会長	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半
	岡崎八十則	鷹者	井上哲	片山直明
	寺本教生	賛者	長尾海和	
	井上哲			
地 方	片山 勲 西山 道 窪田 靖明	向所隆文 伊東康成 雲庵春彦	高島 栄造 岩橋 秀一 川村 吉夫	
	大教会長 岩橋慶三 牧野道昭 會長夫人 前 会 長 片山やすゑ	永山晴明 奥村龍夫 窪田卓夫 岩橋元実 永山みすゞ 原口和子	横山正次 吉田知彦 阿部盛夫 高垣洋子 片山美穂 肥後良子	
	てをどり			
神殿講話	ちやんぼん 拍子木 太鼓 すりがね 小 鼓 三 味 線 胡 弓	岩橋竜造 老木邦光 井上 哲 寺本教生 大西 知 平井真治郎 長尾澄子 片山孝代 池田さわみ	高垣光治 茶屋原良昭 長尾海和 原口 実 篠原丕王 永島宗行 向所暉美子 伊東晴美 岡崎むつえ	横山富明 長濱充憲 香川勝巳 大矢万三 橋口 徹 倉嶋孝明 梅木澄代 佐藤道子 長尾善絵

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には陽気ぐらしを楽しみにこの世人間をお創り下されてより片時も途切れることなく十全の御守護をもってお護りお育て下さり旬刻限の到来と共に教祖をやしるによりづ委細の真実を明かしたすけ一条の道をつけて陽気ぐらしへとお導き下さいます御慈愛の程は誠に有難く勿体ない限りでございます

私共は届かぬながらも教祖の道具衆としての自覚のもとにたすけ一条の御用に勇んで努めさせて頂いておりますがその中にも今日の吉き日は当大教会の六月の月次祭を執り行う日柄を迎えましたので役目に与るおつとめ奉仕者一同心を一つに合せて只今から座りづとめてをどりを陽気に勇んで勤めさせて頂きます

御前には今日を楽しみに帰り集いました道の子供達が日頃賜る厚き御恵に御礼申し上げます尚も変らぬ御守護にお縋りする真実の状をも御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

尚今月二十四日には御本部大裏地区でのお田植え伏せ込みひのきしんを努めさせて頂きます

又来る七月二十七日から八月三日までおぢ

ばに於きましては恒例の「こどもおぢがえり」の開催に合わせて二十六日には「本島団第三十六回おつとめ総会」更に二十六日から三十一日まで「第百十六回本島団鼓笛隊夏季合宿」を開催させて頂きこれらの活動行事を通して次世代に信仰のよろこびを写し伝え広めさせて頂けるよう努めさせて頂く所存でございます

何卒至らぬ点届かぬ所は幾重にもお仕込み下さいまして世の治まりを願い日々御恩報じの心で努めさせて頂く一同の真実の程をお受け取り下さいます互いに立て合いたすけ合い一手一つに睦み楽しむ世の状へとお導き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

(原文のまま)

6月22日(月)

【香川県丸亀市】

天 候 曇一時晴後雨

最低気温 20.6℃

最高気温 24.9℃

平均気圧 1008.1 hPa

平均湿度 81 %

平均風速 2.0 m/s

日照時間 0.7 時間

降水量 3.5 mm

※ 降水量は一日の総雨量

入社祭

(立教189年6月22日)

▼本九△雲庵正彦 ▼マウイ△久尾

マイリー愛業

【計2名】

雅峰分教会 4代会長就任奉告祭



雅峰分教会（宇野康司会長、宮崎県都城市）では、向所暉美子前会長の辞職にともない、5月26日のお運びで、宇野康司氏（54）の教会長任命の理のお許しを戴いておりますが、去る6月13日午前11時より大教会長夫妻（随行・向所隆文准役員）を迎え、4代会長就任奉告祭を執り行いました。



梅雨の真っ只中にもかかわらず、奉告祭日を含む3日間は晴天に恵まれ、全国各地から参拝者115名が集いました。挨拶に立った大教会長はま

ず、前日80歳の誕生日を迎えた向所暉美子前会長に、15年8ヶ月間重責を担ってきたことへの感謝を述べた上で、「雅」という文字は、上品で美しい、洗練されているという意味であるのに「牙」が含まれていることから、硬軟織り交ぜて人をたすける心に通じるように思う、と自らの悟りを披露。続いて逸話篇一四二「ふしから芽が切る」を引用され、「先人の足跡の上に今があります。あくまで教祖の相伴をさせていただく心で、教会の歩みを進めてほしい」と述べ、さらに第二専修科卒業生である宇野康司新会長の、ご恩報じへの熱い信仰に期待を寄せられました。

続いておつとめ・てをどりが陽気に勤められました。

鶴峰分教会 2代会長就任奉告祭



鶴峰分教会（加藤大明会長、福岡市西区）では、加藤文男初代会長の出直しにともない、4月18日のお運びで、加藤大明氏（53）の教会長任命の理のお許しを戴いておりますが、去る6月16日午前11時より大教会長夫妻（随行・向所隆文准役員）を迎え、2代会長就任奉告祭を執り行いました。



参拝者85名。

挨拶に立った大教会長は、奉告祭に際し、加藤文男初代会長様の御霊様がそばで見守りくださっているように感じると、勇んだ教会の印象を述べられ、続いて斯道会の元一日となる逸話篇一四二「ふしから芽が切る」を引用。「先人の艱難苦勞の上に私たちの歩みがあること。あくまで神様のお伴をさせていただくこと。大きな目標を立てて努めさせていただくこと」、さらに「たすけ一条・つとめ一条を胸に治めて新会長を志に勤

めていただきたい」と述べられました。

続いておつとめ・てをどりが勇んで勤められました。

加藤大明新会長は、昨年3月末まで赤峰分教会福岡布教寮の寮長を勤めた後、鶴峰分教会へ家族で入り込み、多くのようばくの協力をいただきながら教職舎の一部をリフォーム。12月18日、加藤文男初代会長の出直しを受けて、会長任命のお運びと就任奉告祭の準備をすすめて来しました。

季節の紫陽花を使ったフラワーアレンジメントで飾り、手作りの折詰弁当、境内地の真竹を加工した記念品、直会では教会設立から35年を振り返る写真スライドショー、住込み人によるダンス披露など、何から何まで手作りの心のこもった奉告祭となりました。



本九分教会創立100周年記念祭

本九分教会(雲庵春彦会長、佐賀県唐津市)は大正15年3月26日に設立のお許しを戴いてから、今年が創立100周年を迎える節目にあたることから、4月26日に臨時祭典願の理のお許しを戴き、去る5月31日午前10時30分より大教会長夫妻(随行・片山勲役員)を迎えて、「創立100周年記念祭」を執り行いました。参拝者54名。

ただましよう」と述べられ、続いておつとめ・てをどりが陽気に勤められました。記念祭に際し、雲庵会長は「今日までの6代と100年の年月の重みを胸に治めつつ、この名称の上に培われてきた御徳に恥じないよう、これからも神一条の道を進ませていただきます」と誓いを述べました。

直会では「本九百年の歩み」のスライド動画を上映し、ゲームを楽しみました。

青年会ひのきしん隊

青年会本島分会(伊東賢太郎委員長)では、おやさとしん青年会ひのきしん隊第950隊へ6月6、7日と13、14日の4日間入隊。青年会員10名、大教会長を含むOB2名が参加しました。

こどもおちばがえりのテント設営、大裏地区の田植えひ



大裏地区田植えひのきしん
御本部の献饌物や御供米に使われる大裏地区(天理市豊田町)の水田で、手植えによる田植えひのきしんが、6月24日午前9時より実施。4回



のきしんを行いました。

目となる今年は24名が参加し、約2時間かけて2反に苗を植えました。

つつじ刈りひのきしん

大教会表参道の斜面に育つ数百本のツツジの剪定が、栄峰分教会(大矢万三云長)を中心とした約10名のひのきしん者によって、5月22日から5日間かけて行われました。



神殿障子張替ひのきしん

安藝本中分教会(池田さわみ会長)では本年創立100周年を迎えるに当たり、その理作りのひのきしんとして、大教会長の依頼を受け、5月30日と



31日に21名が大教会に帰参し、神殿の障子張替を行い、2日間で結界から上手の大障子と欄間を張り終えました。続いて参拝場の障子は神殿奉仕者が引き継ぎ、6月11日までにすべて張り終わりました。



5月26日から27日に石川県珠洲市にて災害支援有志隊の活動を行いました。

令和6年に能登半島地震、大雨による土砂災害と一年のうちに二つの大きな被害に遭われた珠洲市大谷地区で今回は活動を行いました。

この大谷地区は珠洲市内から車で30分以上かかりまう。地震と土砂崩れにより、主要な道路が寸断され、地震の際には二週間以上孤立化し、支援物資が届かず、断水は数カ月以上も続いた場所です。

現在、インフラ整備が進んではいるものの、道路の段差や、崩落した箇所を修復、補修作業が続いていて、大型重機やダンプカーなどとすれ違いを繰り返しながら大谷地区へ向かいました。

支援活動の場所は、大谷町第一団地集会場
で「サンドウィッチとペーパークラフト」を
行いました。「美味しいサンドウィッチを
食べさせてくれて、ほんとありがとうね。」
と集まってくださった方々に喜んでいただ
けました。また、ペーパークラフトにも熱
中していただき、「孫が遊びに来た時に見
せてあげよう」と口々に話されていました。



「震災以後、避難所や応急仮設住宅で生活を余儀なくされ、震災以前の暮らしとはまったくかけ離れた、窮屈で大変な生活が続く中で、様々なボランティア団体の催し物がほんの一時の息抜きになっている。こんなに大きな声で話したり、笑ったりできることが嬉しい。」と聞かせてもらいました。そしてこのような支援がいずれなくなくなり、被災地のことを忘れられることが寂しく、悲しいとも話してくれました。

有志隊の参加者からは、「復興支援だけでなく、心のケアにも目を向けた応援が大切になると感じた。」とありました。

わずかな時間ではありましたが、「喜んでいただきたい」と心を一つにして、勇んでひのきしんができました。

(報告者・牧野善明)

岡崎八十則(与島)、松下尚一(大松峰)、上田勝(本福)、川村かず子(栄東峰)、加藤大岳(鶴峰)、牧野善明(本京)

【以上6名、順不同】

26日、少年会本島団

第36回おつとめ総会

6月29日～7月10日、ハワイ巡教

2日、キナオレ教会鎮座祭

3日、キナオレ教会会長就任奉生祭

22日、大教会月次祭執行

24日、修養科総立まな

25日、かなめ会委員会

26日、本部月次祭参拝

27日〜8月3日、こどもおぢばがえり

29日、本島鼓笛隊前夜祭

30日、本島鼓笛隊オンパレード、

御供演奏

31日、本島鼓笛隊総会

紙面編集の都合から、統計、各種

名簿は来月号に掲載させていただきます。

布教部報告(6月分)

にをいげ名簿提出教会（6月）						おさづけ取次報告教会（6月）					
樺太	6	本千代	6	本陽山	6	本島	6	攝津	6	本新田	6
本倉岡	5	本千治	6	本肥港	6	樺太	6	攝泉	6	本九台	6
本室	6	本浜陽	5	本新田	6	本倉岡	6	本太	6	赤峰	6
渋谷	6	本攝	3	本九台	6	本室	5	本萩	4	雅峰	6
代々木	6	攝津	6	赤峰	6	渋谷	6	P.C.	1	神峰	6
本萬代	6	攝泉	6	雅峰	6	代々木	6	琴浦	2	豪峰	6
本都	4	本萩	4	神峰	6	本萬代	6	本福	6	大雄峰	5
本京	4	本琴浦	2	豪峰	6	本都	5	安藝本中	5	雄福峰	6
本東	3	本福	3	雄福峰	6	本京	5	本備前	6	雄山峰	3
本道盛	2	安藝本中	5	栄森峰	6	本東	3	本迪	4	栄森峰	6
本草	6	本備前	6	栄東峰	4	本草	6	本府中	6	栄星峰	6
本護	5	本迪	6	霊峰	5	本恵山	4	沖浦	6	栄東峰	3
本恵山	4	本府中	6	實峰	5	本恵明	5	馬木尾	2	實峰	3
本恵明	5	沖浦	6	大隅聖峰	6	本静濱	6	本亀	4	大隅聖峰	6
本静濱	5	馬木尾	2	大駿峰	4	本日米	4	崇徳	6	大駿峰	6
本静森	4	本亀	4	別峰	6	本浜	6	与島	6	別峰	6
本日米	4	崇徳	6	大英峰	6	本米	6	本勇	5	吉松峰	3
本浜	4	与島	5	都峰	5	本米臺	6	本高	6	大英峰	6
本米	5	本高	4	仙峰	6	本米里	5	本宣道	3	銀峰	1
本米臺	1	本宣道	5			本米浜	6	本九	6	仙峰	6
本米里	5	本九	6			本千代	6	本陽山	6	ハリウッド	5
						本攝	3	本肥港	6		
計 61 教会 771 名					計 65 教会 1,847 回						

大教会からの お知らせ

6月22日教会長会議連絡事項

少年会本島団おつとめ総会

【少年会本島団】

少年会本島団 第36回おつとめ総会

- 日時：7月26日(日)午後1時集合
- 場所：本島詰所
- 持ち物：おつとめ着の内に着る肌着、足袋またはタビックス
- 内容：13:45リハーサル、16:00おつとめ総会、18:00会食・お楽しみ行事、19:30頃解散

こどもおぢばがえり

【教会本部】

こどもおぢばがえり要項

- 期間：2026年7月27日～8月3日
- 要項：こどもおぢばがえりオフィシャルサイトをご覧ください。
- 申込キーについて：5/22各教会に「申込キー通知書」を配布しています。カレー食の申込と帰参予定人数はインターネットでの事前申込となります。7月1日10:00より申込開始。カレー食は食数に上限がありますので、お早めにお申込みを。

本島学生会サマーキャンプ

【本島学生担当委員会】

- 会場：本島大教会
- 日程：8月18日(火)大教会集合。19日(水)ひのきしん、海濱行事。20日(木)青年会ならびに女子青年(こかん様に続く会)行事、お楽しみ行事

第3回 関東の集い

【青年会本島分会】

- 日時：8月30日(日)9:00受付
 - 場所：渋谷分教会
 - 対象：関東にお住まいの16歳以上
- ※参加御供はなし

4代会長片山昇 40年祭

【総務部】

本島大教会 4代会長片山昇 40年祭

- 日時：10月21日(水)午後1時執行
- 帰参報告書(5/22教会長会議にて配布)を7月22日まで、直轄教会ごとまとめてご提出ください。

シルバーウィークひのきしん

【総務部】

シルバーウィーク・ファミリーひのきしん

- 期間：9月19日(土)～21日(祝)
- 場所：本島大教会
- 内容：10/21年祭に向けての準備ひのきしん

学生生徒修養会 高校の部

【天理教学生担当委員会】

- 期間：令和8年8月9日～8月13日
- 受講対象：高等学校に在学し、全期間受講できる者
- 受講御供：10,000円
- 申込期間：5月25日～7月25日
- 申込方法：要項をダウンロードしてご確認ください。
- お問合せ先：雲庵春彦 090-2515-8039
横関茂治 090-1138-1690

MOMOの会

【婦人会本島支部】

MOMOの会「女鳴物勉強会」

- 期日：7月30日(木) 31日(金)
- 会場：本島詰所
- 内容：女鳴物勉強会(琴、三味線、胡弓をお選びいただきます。初めての方も安心してご参加ください)
- 持ち物：琴爪(貸出しもあります)
- 申込方法：MOMOの会担当者に直接ご連絡いただくか、QRコードを読み取り公式LINEの申込フォームからお申込みください
- MOMOの会担当者：永島すすみ(渋谷)、平井由紀子(樺太)、片山美穂(本攝)

宮森先生おてなおい

【おつとめ修練部】

- 日時：8月25日(火)午後3時より
 - 会場：本島詰所4階講堂
- ※どなた様も受講できます。

7月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉

- 期間：7月21日～22日
- 派遣教会：琴浦

〈詰所・食堂ひのきしん〉

- 期間：7月25日～26日
- 派遣教会：樺太、与島

〈鼓笛隊夏季合宿ひのきしん〉

- 場所：本島詰所 ●期間：7月25日午後8時～31日午後1時頃
- 担当教会：渋谷、本京②、本攝、本柳、本九、赤峰②

〈こどもおぢばがえり〉

- 期間：7月31日～8月1日、本京、本岡崎、撫川、赤峰
 - 期間：8月2日～3日、本浜、本攝、安藝本中、赤峰
- ※前日の午後8時集合、最終日午後8時解散

大教会7月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：7月22日大教会7月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：7月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。

にをいがけ・おさづけWeb報告

【布教部】

- 「にをいがけ名簿」「おさづけ取次報告」の新しい入力フォームができました。
- Web報告の締切は毎月20日(4月は12日)です。

<https://www.honjima.com/>